

第6章 学校における防災教育の展開例

小学校

- (1) 1年生 生活科
- (2) 2年生 生活科
- (3) 2年生 生活科
- (4) 3年生 社会科
- (5) 3年生 総合的な学習の時間
- (6) 4年生 社会科
- (7) 4年生 社会科
- (8) 4年生 総合的な学習の時間
- (9) 4年生 総合的な学習の時間
- (10) 5年生 国語
- (11) 5年生 社会科
- (12) 5年生 理科
- (13) 5年生 体育科
- (14) 5年生 学級活動
- (15) 5年生 総合的な学習の時間
- (16) 6年生 総合的な学習の時間
- (17) 6年生 総合的な学習の時間
- (18) 全学年 特別活動
- (19) 全学年 特別活動
- (20) 全学年 防災参観
- (21) 全学年 防災ノートの開発と活用

1 単元名 「がっこうだいすき」

2 ねらい

○第2学年との「がっこうたんけん」で、もっと詳しく知りたかった「しょうかせんのなか」「だんぼーのなか」を調べることにより、学校には学習のための教室だけでなく命を守る用具もあることがわかる。

【防災教育の観点】

○「低学年の重点目標の学校や校区にある安全な施設について理解を深める。」から、学校には火事から命を守る消火栓や消火器、災害から避難した時のための用具が備えられていることがわかる。

3 指導計画

(1) 事前指導

①みんなでがっこうをあるこう

- ・第2学年の子に引率されながら、校舎内や校庭を歩いて回り、学校の中の施設や人々に興味・関心をもたせる。

②がっこうをたんけんしよう

- ・探検した教室や設備でもっと見たいところや知りたいことを話し合い、学校には命を守る施設や準備がしてあることに興味・関心をもたせる。

(2) 本時の指導

学校探検で「もっと知りたいこと」では、①理科室や音楽室をもっと調べたい。

②消火栓の中を見てみたい。パソコン準備室の段ボール箱の中を見てみたい。という児童の課題を解決する。本時では、②について、指導する。

実際に、消火栓の扉を開けてホースの長さを見せて、どこから出火しても消火することができ、「命を守ることができること」を学習する。また、非常備蓄品の段ボール箱を開いて児童が直接、備蓄品を見たり触れたりすることにより、災害のために避難してきた時には、誰でも素早く準備ができる指揮を指導する。紙のトイレ・子どもや大人用のおむつ・非常食・水などの備蓄品が、なぜ、こんなにたくさん準備されているのかを考えさせることにより、学校が避難所になって多くの人が安心して過ごせる準備をしておく必要性を学習させる。



<多くの非常備蓄品>



<非常食 (ひじきごはん) >



<簡易トイレ>

最後に、災害時に学校は避難所になる可能性があることを「3. 11 東日本大震災」の避難所から学習し、多くの非常備蓄品の必要性を学習させる。

(3) 事後指導

本時で学習した内容については、毎月異なる想定で行われる「命を守る訓練」の時に思い出させ、常に防災意識を高める工夫をする。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	指導・援助	資料等
1 第2学年の子との学校探検で、知りたいことを確認する。 ・消火栓の中を見てみたい。 ・段ボール箱の中を見てみたい。	・第2学年との学校探検を思い出す。	
2 消火栓の中に何が入っているか考える。 ・第2学年の子が、「ボタンをおしてだめ」と言っていた。 ・これは、火を消すためのものだと思う。	・実際に廊下に出て、消火栓の扉を開けて、中を見る。 ・普段は開けないことを確認しておく。 ・消火栓は、命を守るものであることを押さえる。	
3 消火栓の扉を開けて、気付いたことを話す。 ・長いホースがある。 ・校舎から火が出た時には、このホースから水が出て、火を消してくれる。	・実際に段ボール箱を出して、中を見る。	
4 第2学年との学校探検で、段ボール箱に何が入っているか、教えてもらつたことを話す。 ・第2学年の子が、水に浸かったためだと言っていた。 ・栄養調整食品が入っていた。 ・段ボール箱に、「おむつ」と書いてあった。	・非常備蓄品	
5 段ボール箱の中を見て、たくさんの食べ物やテントはどんな時に使うのか考える。 ・トイレが使えない時に、おむつが必要だとわかった。 ・水害や地震などで学校に避難してきた人たちのために、食べ物が準備されていると思う。 ・学校に避難してくる人がいるので、テントが準備されている。	・水害の時の家の写真 ・9・12（S51）の水が浸かった高さの看板	
6 学習をまとめること。 ・こんなにたくさん食べ物やトイレがあるとは思わなかった。命を守るためにには、こんなに多く必要だとわかった。	・水が浸かったら、学校が避難場所になっていることを教える。	

5 評価規準

思考・表現	気付き
段ボール箱には命を守るものが準備されていることを自分なりに考えて表現している。	消火栓が自分たちの命を守っている設備であることがわかり、自分とのかかわりに気付いている。

1 単元名

「もっとなかよしまちたんけん」

2 ねらい

○町探検で知った地域のよさを仲間に分かりやすく伝えることができる。また、自分たちの地域のよさを知り、それについて考え、素直に自分の言葉で表現することができる。

【防災教育の観点】

○地域には避難場所や見守り隊など、命を守るために必要な施設や仕事があることが分かる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

地域の方へのインタビュー内容を決める際、意図的に防災に関わる質問を入れた。見学場所にもあらかじめ内容を伝えた。

(2) 本時の指導**①インタビューの内容をまとめ、発表する。**

それぞれが見つけた地域の人々や場所のよさと、命を守る工夫について模造紙やペーパー等を使って発表する。

②発表を聞いて感想や質問を交流し、自分の言葉でまとめる。

特にすごいなと思ったこと、初めて知ったことと、命を守ることについて分かったことを自分なりの言葉でまとめる。

③地域のよさと命を守る工夫についてまとめる。

感想カードに書いたことを交流し、地域のよさと命を守る工夫について確かめる。

(3) 事後指導

「もっとなかよしまちたんけん」で分かったことを地域の人に伝える場を設ける。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1. 発表のポイントを簡単に確認する。 ・はっきり、聞こえる声で言うこと。 ・考えながらしっかり聞くこと。	・よさと防災の2つの視点で発表を聞けるように聞く時のポイントを示す。	
2. グループごとに発表する。 ・館長さんにお話を聞きました。地域の公民館は大人も子どもも、地域の人みんなが使えるそうです。避難場所になっていて、地震や水害が起きたら避難ができます。		
3. 発表を聞いて感想や質問を交流する。	・初めて知ったことや自 (資)地域の公民館	

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人がみんな使えるなんてすごいな。 ・いちごっこやとんくるでつかったよ。 ・小学校も避難場所になっていたよ。 <p>4. 他のグループでも同様に発表・質問をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の前の横断歩道には、私たちが登校する時に「見守り隊」の人が立って自動車を止めてくれるよ。 ・「見守り隊」の人のおかげで、私たちはいつも安全に横断歩道を渡ることができるよ。 <ul style="list-style-type: none"> ・お寺の住職さんは、困っている人を助けるためにお仕事をしているそうです。大きな鐘があって鳴らさせてもらいました。昔、水がまちにあふれた時に、みんながお寺に避難してきたことがあったそうです。 	<p>分が知っていることを伝えようとしている児童を価値付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が、地域の仲間を大切に思っていることを補足説明し、確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・お寺は学校や家よりも高い位置に建っていることを確かめ、水害のときに避難できることを確かめる。 	<p>の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動や非常階段などの写真 <p>(資)登下校時の見守り隊の写真</p> <p>(資)お寺の写真 防災マップ</p>
<p>5. 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館は大人の人も勉強できるところだからすごいな。 ・「見守り隊」の人はみんなのことを大事に思っていてすてきだな。 ・お寺の住職さんに会ってお話を聞いてみたいなと思いました。 ・地域には命を守る場所がたくさんあるんだな。 	<p>【防災教育の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域には見守り隊や避難場所など、命を守るために必要な施設や仕事があることが分かる。 	

5 評価規準

生活への関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
<p>自分が探検した場所やインタビューした人のことを振り返り、発見したよさを分かりやすく伝えようとしている。</p>	<p>発表から、地域の場所や人のよさを見付けて、自分の言葉で感想カードに書くことができる。</p>	<p>地域には安心して楽しく暮らすための工夫やよさがたくさんあることに気付くとともに、地域の人々が地域を大切に思う気持ちに気付くことができる。</p>

1 単元名

「どきどき わくわく まちたんけん」

2 ねらい

○町探検で見付けた危険な箇所を発表し合うことを通して、自分たちが生活する町の至る所に危険な箇所があることに気付くとともに、危険から身を守るために施設・設備や工夫があることがわかり、自分の命の守り方を理解できる。

【防災教育の観点】

○いろいろな災害を想定すると、地域には危険な箇所があることに気付くとともに、その危険から自分の命の守り方が分かる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

地震や洪水による被害の様子の写真を見せ、災害時にどのような危険があるかを理解させる。

地震や洪水が起こると危険な箇所を見付けながら町探検を行い、「まちたんけんマップ」にまとめる。

(2) 本時の指導

①町探検で見付けた危険な箇所を発表し交流する。

町探検で見付けた危険な箇所について、どうして危険なのか、また自分の命を守るためにどんなことに気を付けるとよいか考えて発表する。

②発表で出た危険な箇所を、交通安全、地震、洪水の3種類に分類する。

危険な箇所について、3つの視点から分類し、災害種に応じた危険な箇所を考えられるようにする。

③これらの危険から命を守るためのものはなかったか考える。

地震や洪水が起ったときに、危険から身を守るために施設や設備について考える。

(3) 事後指導

・町探検の学習を通して学んだことや気付いたことを発表し、学習のまとめをする。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 課題を知る。 まちたんけんで見付けたきけんなところをはっぴょうしよう。		
2 町探検で見付けた危険な箇所を発表し、質問や付けたしなどの交流をする。 <ul style="list-style-type: none">・見通しの悪い交差点・自動車のよく通る道路・ブロック塀・電柱、電線・マンホール・用水路、川	なぜ危険なのか、また、命を守るためにどんなことに気を付けるとよいかについて考えられるようにする。 質問や付けたしで発表を発展させる。	まちたんけんマップ 危険な箇所の写真
3 発表で出た危険な箇所を、交通安全、地震、洪水の3種類に分類する。		
4 これらの危険から命を守るためのものはなかったか考える。 <ul style="list-style-type: none">・標識（止まれ）、カーブミラー、信号、横断歩道、ガードレール、歩道・石垣、お寺（高い場所にある）	自分たちが生活する町の至る所に危険な箇所があるが、だからこそ命を守るための施設・設備があることに気付けるようにする。	命を守るための施設・設備の写真
5 先生の話を聞く。	地震や洪水が起ったときは危険なところに近寄らないこと、また、集会所や学校やお寺に避難することを教える。	

5 評価規準

- 自分たちが生活する町の至る所に危険な箇所があることに気付き、安全に気を付けて生活しようとする。（気付き）

1 単元名

「学校のまわり」

2 ねらい

○地域にある「□□地区」は道路が狭く、家が密集しているのは、周囲と比べ土地が高い場所に人々が集まって暮らしてきたからであることを知り、当時の人々の暮らしや苦労を想像して地域の特色に気付くことができる。

3 指導計画

(1) 事前指導

防災教育の対象災害を「洪水被害」とし、本単元に入る前に児童の洪水に対する意識調査を実施した。

(2) 本時の指導

①探検で分かったことをもとに「□□地区」の地域の特徴を出し合う。

導入において、地区の探検で分かったことを確認し、なぜ家が密集し道が入り組んでいるのか予想する。

②洪水の資料や豪雨浸水位をもとに、「□□地区」の特徴を考える。

9. 12水害の写真や浸水位の表から、過去に洪水が起っていた地域であることをつかむとともに、他地区との浸水の違いから土地の高さの違いについて理解できるようにする。

③終末に「□□地区」の方の話を聞き、特徴の理由を確かめる。

全体交流後、地域の方から昔の「□□地区」の様子の話を聞き、「□□地区」は他の地域に比べて土地が高いため、そこに集まって住んでいることや、さらに石垣を積んだり、家の土台を高くしたりして洪水から身を守るために工夫して生活していることを感じ取らせる。

4 本時の展開

	ねらい	児童の学習活動	・指導・援助
つかむ	<p>○「□□地区」は、密集して家が建っていることを確かめる。</p> <p>○本時の課題をつかむ。</p>	<p>1 町探検に出かけた□□地区の航空写真を見て、気が付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家がかたまってたくさん建っている。 ・道が狭くて、くねくね曲がっている。 ・昔から、そこに家を建てて暮らしていたんだ。 <p>なぜ、そがやの人々は、この場所に家を建てて暮らしてきたのだろうか。</p> <p>2 学習課題に対する予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りは住むことができなかったのかな。 ・この場所に、何かいいことがあったのかな。 	<p>(資)写真：□□地区の航空写真</p> <p>地図：明治43年□□地区の地図</p> <p>・地図を提示することで、昔から一ヵ所に集中して家が建っていたことに気付くことができるようとする。</p>

ふ か め る	<p>○写真や地図 資料を読み取り、課題に対する考え方を作る。</p> <p>○友達の話をもとに、自分の考えをふくらませる。</p> <p>○地域の方の話を聞き、□□地区でくらしてきたい思いを知る。</p>	<p>3 資料を読み取り、課題を解決する。</p> <p>○9. 12水害を写真を提示して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の前の道が水につかてしまっているよ。 ・このあたりもたくさん水に浸かったんだ。 <p>○課題追究の資料を説明して提示する。</p> <p>①◇◇地内の浸水位模型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・◇◇の方は、たくさん水に浸かっているけど、□□地区の方はあまり浸かっていないよ。 <p>②土地の高低地図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□□地区は、学校より高くなっているんだ。 ・洪水のときに、水は□□地区のこの場所を通り、よけるようにして流れていったんだ。 <p>分かったことをプリントに記入する。</p> <p>4 全体で交流し、自分の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔、◇◇地区で洪水があって、いろんなところがたくさん水に浸かってしまった。 ・でも、□□のこの場所はあまり水に浸からなかった。それは、この場所が、他のところよりも高くなっているからなんだ。 <p>5 地域の方の話から、□□地区の人々の生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場所は、他の地域より土地が高いから水に浸かりにくいところなんだ。昔から住んできたこの土地をこれからも守っていきたい。 <p>6 本時の学習をまとめると</p> <p>□□の人々は、安心した生活ができるようするために、土地が高い場所に家を建ててくらしてきました。</p>	<p>(資)①写真: 9.12 水害の航空写真 ②模型: 9.12 豪雨浸水位 ③地図: ハザードマップ (防災教育の観点) ☆資料から、過去に洪水があったことを知り、浸水位の違いから地区によって土地の高さに違いがあることに気付くことができる。</p> <p>・どの資料からどんなことをつかんだのか、明確にする。 ☆【水害時の水の流れ】を地図に重ね、土地の高さと水の関係を示す。 (防災教育の観点)</p> <p>☆地域の方の話から、水害から生活を守るためにそこにくらしててきた人々の思いを知ることができる。</p> <p>◆思考・判断・表現◆ 資料や見学したことをもとに、昔からの家が、石垣の上に建っている理由を考えることができる。 (発言・ノート)</p>

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
◇◇の町の様子に関心をもち、五感を働かせて意欲的に調べようとしている。	資料や見学したことなどをもとに、河渡の昔からの家が、石垣の上に建っている理由を考えることができる。	◇◇の町を視点をもって見学し、見学結果を絵地図や紹介カードにわかりやすくまとめることができる。	◇◇の町は、場所によって違いがあり、それぞれ特徴があることがわかる。

6 その他

- ・参考資料：地域の過去の水害の記録 など

1 単元名

「自分の町 発見！」

2 ねらい

○自分たちの住む地域について調べることを通して、低地ならではの特色を理解して地図などにまとめるとともに、防災に関連する施設を調べ、自然災害に対するそなえについて、役割や仕組み、工夫されていることなどを明らかにする。

3 指導計画

（1）事前指導

自分の住む地域は、その半分あまりが海拔ゼロメートル地帯であり、洪水を防ぐために7mもの高さの堤防が作られていることを確認しておく。

単元序盤の「学校のまわりを調べよう」において、水防倉庫や排水機場など低地ならではの建物について地図に書き込ませておくようとする。

（2）本時の指導

防災士の方からなぜ排水機場が必要かということについての話をしていただく。

- ・展示してある排水機場の模型やボードを見学する。
- ・防災士の方の案内で、排水機場の設備を見学する。
 - ①発電発動機
 - ②エンジン
 - ③ポンプ
 - ④除塵機

（3）事後指導

- ・終了後、学んだことをワークシートにまとめる。
- ・防災ノートの「防災マップ」に排水機場の場所と役割を記入する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 防災士の方からなぜ排水機場が必要かということについての話をしていただく。	・防災士の方による排水機場の説明をしっかりと聞けるよう、声をかけながら見届ける。	・排水機場のパンフレット
2 展示してある排水機場の模型や資料ボードを見学する。	・どの順番で見学をすると役割や仕組みがよく理解できるかを考え、順序よく見学させる。	・輪中の様子 ・木曽三川下流域の断面図 ・水害を防ぐための工夫 ・排水機場のしくみ ・発電発動機
3 防災士の方の案内で、排水機場の設備を見学する。 ①発電発動機 ②エンジン ③ポンプ ④除塵機	・防災士の方から設備の具体的な説明を受けるとともに、よく分からなかったところや疑問に思ったことを発表させ、ワークシートにメモさせるようする。	・エンジン ・ポンプ ・除塵機 ・水門 ・操作盤 等
4 分かったことや思ったことを発表し、学んだことを振り返る。	・排水機用の役割について全体の場で確認してまとめる。	

5 評価規準

- 防災士の方の話を聞くことを通して、なぜ排水機場が必要かということを理解することができている。
- 排水機場の施設を実際に見学することを通して、洪水のときにどのようなしくみで地域の人の命や財産を守っているのかを具体的に理解することができている。

1 単元名

「きょう土を開く」～水害からくらしを守る人々～

2 ねらい

○度重なる水害に悩まされてきた地域の人々のくらしをよりよくしようと、堤防の改修工事に取り組んだ当時の様子を、当時の人の話や年表、地図などの資料から追究し、当時の人々の苦労やその後の生活の変化について理解することができる。

3 指導計画

(1) 事前指導

防災教育の対象災害を「河川の氾濫による洪水被害」とし、本単元に入る前に児童の近隣の河川や洪水に対する意識調査を実施した。

(2) 本時の指導

①堤防改修前の地域の人々のくらしをつかむ。

導入において、地域の水害の歴史や「地域の人の手記」を紹介し、改修工事前の地域のくらしを十分に想像させる。

②改修当時を知る人物の話を追究資料の中心にし、当時の様子をつかむ。

改修工事当時を知る2人の人物を教材化し、文章の読み取りから想像したり、地図や絵資料とつなげたりして、より理解できるようにする。

☆Aさん：古川のつけかえ工事につながる新川を作る様子

☆Bさん：長良川沿いの堤防を高くする工事の様子

③終末に学習したことで自分たちの地域や防災に関する意識の変容を確かめる。

全体交流後、今ある堤防を見て思ったことを問い合わせ、当時の努力が今のくらしにつながっていることを感じ取らせる。

(3) 事後指導

堤防改修後に起きた9.12水害の写真や浸水位図から、改修によって水害に対するすべての心配がなくなったわけではないことを知り、浸水被害に備えた準備や行動ができるようにすることが大切であることを考えさせる。

4 本時の展開

ねらい	児童の学習活動	指導・援助 ☆評価規準
<p>○この地域も輪中であり、水害に悩まされてきた事実をつかむ。</p> <p>○本時の課題をつかむ。</p>	<p>1 地域の水害の歴史を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域でも江戸時代から洪水が起きている。 ・特にこの地域ではよく堤防がきれているな。 <p>2 明治の頃のこの地域の様子を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域は、3つの川に囲まれた輪中だった。 ・水害になると、とても苦労していたんだな。 ・この場所が、川の改修工事の最後の場所なんだ。 <p>この地域の水害を、どのように防ごうとしたのだろう。</p>	<p>(資)年表 地域の洪水の歴史 ・下流域の工事よりも遅れたことに気づかせる。</p> <p>(資)地域の地図（前） (資)文章 Aさんの手記</p>

ふ か め る	○既習内容をもとに、追究の視点をもつ。	3 学習課題に対する予想を交流する。 ・輪中になっている川の流れを変えたのではないか。どうやって変えたのかな? ・この地域の周りの堤防を高くしたのかな。どこからその土をもってきたのだろう。 ○改修前と後の一日市場の形を知る。 ・川の位置をこれだけ変えるのは、どのようにして行ったのだろう。	・この地域に暮らす人々は、水害に苦しみ、何とか水害を防ぎたいと考えていたことを知る。 (資)地図(後) ・川の流れが変わっている
		4 資料を読み取り、課題を解決する。 ○ <u>2人の人物資料を提示する。</u>	①新川づくり(Aさんの話) ②堤防改修(Bさんの話)
	○友達の話をもとに、各資料から分かったことをつなげて、自分の考えをふくらませる。	5 全体で交流し、自分の考えを深める。 ・古い川の流れをしめきったんだ。 ・新しい川の道を作ったなんて知らなかった。ここでも流れを変えていたんだ。 ・エキスカベータや5t機関車など、大きな機械やたくさんの人々の手で工事したんだ。 ・この前土のうを運んだけれど、少しなのにとても大変だった。とても苦労したと思う。 ◇工事が終了した時、この地域の人たちはどう思っていたのだろう。 ◇今、学校から見える堤防を見て、あなたはどう思いますか?	①文章「Aさんの話」 (資)絵: 5t機関車作業絵 (資)写真: エキスカベータ ②文章: Bさんの話 (資)絵: 堤防の高さの図 (資)写真: 現在の堤防 ③数字: 工事での土砂の量 ・どの資料からどんな事実をつかんだのか、明確にする。 ・三川分流工事や自分の体験とつなげた発言を認める。 <防災教育の観点> ☆体験談から工事の様子をつかみ、当時の人々の暮らしや苦労を想像して、今の暮らしにつながっていることに気づくことができる。
	○当時の人々の気持ちを想像し、今の暮らしがあることへの感謝の気持ちをもつ。	6 本時の学習をまとめると。 この地域の水害をなくそうと、昔の人々は川のしめきりや堤防を高くする等、地域の暮らしを守ろうと努力してきたんだ。	◆思考・判断・表現◆ しめきり工事の様子を資料を読み取って知り、当時の人々の苦労や努力について考えている。(発言・ノート)

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
三川分流工事に携わった平田鞆負やデレーケ、長良川の改修工事に関わった先人の働きに関心をもち、見学したことや資料を生かしてその苦労や工夫、願いを調べようとすることができる。	しめきり工事の様子の資料をもとに、当時の人々の苦労や努力について考えている。	海津市歴史民俗資料館や水屋の見学、絵図や年表などの資料を活用して、治水工事に尽くした先人の働きや苦心を読み取り、年表や新聞にまとめることができる。	治水工事や締め切り工事など、地域の発展に尽くした先人の働きを理解するとともに、これらの工事によって地域の人々の生活が向上したことを理解することができる。

6 その他

- 参考資料: 地域の過去の水害の記録など

1 単元名

「暮らしを守る」(風水害)

2 ねらい

○水防団の仕事の内容と、その仕事に関わる思いを知ることができる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

防災教育の対象災害を「河川の氾濫による洪水被害」とし、本単元に入る前に児童の近隣の河川や洪水に対する意識調査を実施した。

(2) 本時の指導**①9・12災害などいくつかの災害を知り、水防団の活動を調べる。**

この地域は輪中であり長く水害に苦しめられてきた。そのため水防団の活動見学を位置づけ、現在の水害に備える多くの施設があること(水防倉庫、排水桶門)、地域を自分たちの手で守るために組織的に活動している水防団があることを理解する。

②意識調査と過去の風水害の実態から、この地に住む人々の思いや願いを考える。

大きな川に合流する地域の川を見守る水防団の活動を通して、この地区の風水害から同じ地区の人々を守ろうとする活動を理解する。

③水防団の人たちは、水害から人々の安全を守るためにどのような工夫や努力をしているか確かめる。

水防団の人たちは、訓練や定期的な見回り活動をして、水害から人々の安全を守るために工夫や努力を重ねているかを感じ取らせる。

4 本時の展開

ねらい	児童の学習活動	指導・援助☆評価規準
○市水防連合演習から、どのような訓練などを考える。	<p>1 市水防連合演習の様子を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じような服装の人がたくさんいるな。 ・たくさん的人が同じ動きをしているな。 ・この地域の看板もみつけたよ。 ・何度も練習したのかな。 <p>2 課題</p>	<p>(資)VTR市水防連合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市あげての大会であることに気づかせる。 <p>(資)VTRをもとに予想を立てているか。</p> <p>(資)活動のスケジュール表</p> <p>(資)仕事内容</p>
○本時の課題をつかむ。	<p>水防団の人たちは、水害から人々の安全を守るためにどのような工夫や努力をしているのだろう。</p>	

<p>○既習内容をもとに、追究の視点をもつ。</p> <p>○資料を読み取り、課題に対する考え方をつくる。</p> <p>○友達の話をもとに、各資料から分かったことをつなげて、自分の考えを広げ深める。</p> <p>○水防団の人々の気持ちを想像し、今のくらしがあることを知る。</p>	<p>3 学習課題に対する予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業の手順を覚える。 ・水が増えているか気にかける。 ・休みの日に訓練する。 ・何かあったら仕事場からも駆けつける。 <p>○水防団の年間のスケジュールを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事が終わってから活動している ・休みの日にも活動している。 <p>深めの発問 水防団の人たちはなぜ、ボランティアとして活動しているのだろう。</p> <p>4 資料を読み取り、課題を解決する。</p> <p>○団長さんの資料を簡単に説明して提示する。 (地域を守るため文言を入れる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも川の様子を調べたり、倉庫の点検もしたりしている。 ・水防団の人たちや活動の様子について、分かったことと思いをノートに記入する。 <p>5 全体で交流し、自分の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ起きるか分からない水害に備えて、自分の仕事ではないのに訓練してくれているんだな。 ・地域を守るために、私たちの知らないところでやってくれていたんだな。 <p>6 本時の学習をまとめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>水防団の人たちは、この地域のくらしを守ろうと、いざという時に備えて活動してくれている。</p> </div>	<p>〈防災教育の観点〉 資料から水防団の人たちが、水害から人々を守るために、たくさんの訓練を重ねていることを知ることができる。</p> <p>(資) VTR「水防団員さんの話」</p> <p>☆体験談から訓練の様子をつかみ、団員の苦労を想像して、今のくらしにつながっていることに気付づくことができる。</p> <p>〈防災教育の観点〉 大変な訓練を重ねるのは、人々の安全を守るためである</p> <p>(資) 水害を記録した文献等</p> <p>(資) 写真</p> <p>◆思考・判断・表現◆ 資料から訓練の様子を知り、水防団の苦労や努力について考えている。(発言・ノート)</p>
--	---	---

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
水防団の活動の様子に関心をもち、五感を働かせて意欲的に調べようとしている。	資料から訓練の様子を知り、水防団の苦労や努力について考えている。	水防団の活動について、社会科新聞にわかりやすくまとめることができる。	水防倉庫、排水橈門見学を通して、それぞれの役割を理解することができる。

6 その他

- ・参考資料：地域の過去の水害の記録

1 単元名

「地域の歴史を紹介しよう」

2 ねらい

○地域の歴史を調べる活動を通して、水害を防ぐ取組や治水に尽力した先人の苦労などを理解した上で、現在自分たちが安全に生活することができていることに気付くとともに、ふるさとの特徴を知り、安全に生活しようと考えることができる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

- ・社会科「きょう土を開く」の学習において、地域では、洪水が昔からとても多かったことや、洪水から生活を守る工夫、宝暦治水、デレーケによる明治の三川分流工事について共通理解できるよう学習をする。
- ・輪中の成り立ちが分かる場所、輪中堤防、排水機場など実際に見学し説明を受ける。
- ・歴史民俗資料館を見学し、地域の歴史について学ぶ。

(2) 本時の指導

- ・地域の歴史について発表する。
- ・発表を聞き、今まで調べてわかったことなどと重ねて感想を交流する。
- ・現在の地域とつなげて、これからも海津で生活していく上で大事なことに気付く。

(3) 事後指導

- ・家庭でも話題にし、今までの歴史を知った上で今後気を付けていきたいことを話し合い、振り返りのプリントに記入する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 水害と闘ってきた歴史についてまとめ、発表会を通して学び合うことを確認する。	・前時までの発表をふりかえり、発表を聞く観点について確認する。	
2 宝暦治水、明治の三川分流工事について発表する。発表を聞く。	・先人の思いが伝わるように発表の順番を考えたり、図を示したり、話し方を工夫	

	<p>したりするなど、より分かりやすい発表ができるよう に声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞く方は、何が分かったの か、そこから考えたことな どメモしながら聞くよう促 す。 <p>• 今でも洪水が起るかも知 れないことを思い起こさ せ、先人の努力と今後自分 にできることに気付かせ る。</p> <p>• これまで水害に見舞われる ことがたびたびあったけれ ど、苦労をしても海津に住 み続けていた思いを感じと らせ、ふるさとのよさを感 じとらせる。</p>	
3 仲間の発表を聞いて感想を交流する。		近年に起きた洪水 の写真
4 昔からの生活について、地域の文化財 審議委員の先生のお話を聞く。		地域の歴史に詳し い講師による話

5 評価規準

- 水害や治水についての地域の歴史について詳しく調べたことを分かりやすく発表できている。
- 水害や治水について調べたことの発表を聞き、仲間の発表したこと理解した上で自分の考えを交流することができている。
- 今後の水害から地域を守る安全なくらしづくりについて、自分の地域での生活につなげて考えることができている。

1 単元名

命を守る学習「災害図上訓練」

2 ねらい

○通学路や自宅付近で起きそうな気象災害や地震による危険を知り、洪水や土砂災害や地震から命を守るために、危険の予測とその対処方法を、家族や分団の仲間と共に考える。

3 指導計画**(1) 事前指導**

- ①全校集会の中で「命を守る学習」を行うことについて知らせる。プレゼンテーションによりねらいや内容について説明し、学習への意欲付けをする。
- ②通学分団会で、家が近いもの同士の小グループ(DIGグループ)を編成する。
- ③自宅から集合場所までの地図とチェックリストを全家庭に配布し、親子登下校時に危険箇所を調べができるようにする。
- ④命を守る学習の学習カードを第2学年以上の児童に配布するとともに、感想記入用紙を保護者に配布し、防災に対する保護者の意識の把握や今後の取組の参考にする。

(2) 本時の指導

- ①親子登下校を行い、自宅周辺の危険箇所を地図に記入する。
- ②専門家による講演を聞く。
- ③DIGグループに分かれ、災害図上訓練を行う。
- ④下校時に、災害図上訓練で話し合った危険箇所や避難場所などを親子で確認する。

(3) 事後指導

- ①「命を守る学習」学習カードと保護者の感想用紙を回収する。
- ②災害図上訓練(DIG)で使用した拡大マップをデジタルカメラで撮影し、ハザードマップを作成する。
- ③分団会にてハザードマップを配布し、危険箇所を再確認する。
- ④ハザードマップを各家庭に持ち帰り、家庭の約束を話し合い、掲示する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 親子で自宅周辺の危険箇所を調べて、地図に記入する。	・全家庭に自宅周辺の地図と調べほしい危険箇所のチェックリストを事前に配布し、親子で調べができるようにする。	・自宅周辺の地図 ・危険箇所チェックリスト
2 親子で登校を行い、通学路の様子を知る。		

<p>3 講演を聞き、起こりうる災害や防災・減災の方法を知る。</p>	<p>・講演を聞き、児童が災害や防災・減災について、学んだことを記録し、次回の命を守る学習カードの中で振り返ることができるようとする。</p>	
<p>4 災害図上訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学分団をさらに小グループ化したD I Gグループで話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分団の担当者が親子と一緒に災害図上訓練に参加する。進め方に戸惑っているグループを援助したり話し合った内容を確かめたりする。 ・児童と一緒に下校に付き添い、危険箇所や避難場所を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大版自宅周辺地図 ・シール（5色） ・サインペン（5色）
<p>5. 下校時に、話し合った危険箇所や避難場所を確認する。</p>		

5 評価規準

防災教育の観点

- 【心がまえ】災害が起こった時、家族で避難場所を決めている。
- 【知識・理解】大雨が降ったとき、川や山で起こりうる災害について知っている。
- 【考える力】災害が起きたとき、危険箇所を考慮し、どのように避難するとよいか考えている。

6 その他

- ・作成したハザードマップ



1 単元名

伝記を読んで、自分の生き方について考えよう

教材名 「百年後のふるさとを守る」 河田 恵昭

2 ねらい

○目的に応じて、本や文章を比べたり関連させたりして読み、考えたことを発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

○読み取ったことや学んだことから書くことを決め、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。

【防災教育の観点】

○命や暮らしの大切さを知り、将来に渡ってそれらを守るために自分にできることを考え実行した儀兵衛の生き方から、自分の生き方を考えることができる。

危険な目に遭ったときに、自分の身は自分で守ろうとする意識がもてる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

道徳「稻村の火」

(2) 本時の指導

地震・津波などの自然災害の恐ろしさを、自分にもいつでもおこりうることとして捉えさせるために、東日本大震災時の様子とその後の町の様子がわかる映像を見せる。

言葉に表される意思に注目して考えるようなワークシートを作成し、自分の考えをもつための足がかりとする。行動（生き方）は、本文中『村人自らの手で堤防を作ろうと願い出た。』の『自ら』という言葉、考え方は会話文の「百年後に大津波が来ても、村を守れる大堤防を作ろう。」の『百年後』『大堤防』という言葉に注目させる。

(3) 事後指導

本単元の最後には、自分なりに防災にどのように取り組んでいくかという視点での作文を書き、発表し合う場を設けることにより、命を守る生き方を考える指導を進める。

4 本時の展開**<本時のねらい>**

○村をつぶさないために、村人たちに希望と気力をとりもどしてもらおうとした儀兵衛の行動・考え方について「自ら」「百年後」「大堤防」という言葉に着目させながら読み取り、自分なりの考えをもつことができる。

<本時の位置> 4 / 8

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
<p>1 実際の大地震・津波被害の後の様子から、儀兵衛と当時の村の人々の苦悩を考える。そこから本時の場面の確認をし、学習課題を理解する。</p> <p>○津波被害の後の町です。当時の広村でも、これに近いものがあったと思います。儀兵衛は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>・希望を失い、村をすてようとする者まで現れたのを見て、このままでは村がつぶれてなくなると思ったのではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の映像を見て、地震・津波の怖さをより身近なものとしてとらえさせ、当時の人々の苦悩に迫ることができるようする。 ・田畠や家屋について、特に印象づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災映像 DVD

<p>村人に村にとどまり、希望と気力をとりもどしてもらうためにした儀兵衛の行動と考え方を読み取ろう。</p>		
<p>2 本時に学習する場面を音読し、課題に対する自分の考え方をもつ。</p> <p>○儀兵衛の取った行動や考え方が分かる言葉や文章に線を引きながら、音読をしましょう。</p> <p>○儀兵衛のとった行動と、会話文から儀兵衛の考え方を見付け出し、それに対する自分の考えをメモしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動がわかるところは青線、考え方は赤線でサイドラインを引き、区別させる。 児童からキーワードとなる言葉が出てこない場合は、行動に対しては「自ら」、考え方に対しては「百年後」「大堤防」に着目して考えるよう助言をする。 	
<p>行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村人自らの手で堤防を作ることを願い出た。 	<p>考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百年後に大津波が来ても、村を守れる大堤防を作ろう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら」作ることに、どんな意義があるのだろう。「思いり」が違うのかな。自分達でやらなくてはいけないのかな。 ・「百年後」と考えたのはなぜだろう。 ・「大堤防」とあるけれど、大という言葉を使っているわけは、よほど津波の被害が大きかったからだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し方名人・聞き方名人」の姿で話し合いに臨んでいる姿の児童を認める。 	
<p>3 村人に希望と気力をとりもどしてもらおうとした儀兵衛の考え方と共に感できるところや取り入れたいところを話し合い、自分の考えを架める。</p> <p>【全体交流】</p> <p>○儀兵衛の考え方や行動について、なるほどと共感したところや取り入れたいことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震は何度も来るから、大堤防を作ろうとしたことや、百年後まで津波から守れるようにしたところが素晴らしいと思う。 ・自分達で、守るための手段を考え実行した点を取り入れたい。 	<p>＜防災教育の観点＞</p> <p>命やくらしの大切さを知り、将来に渡ってそれらを守るために自分にできることを考え、実行した儀兵衛の生き方から、自分の生き方を考えることができる。</p> <p>危険な目に遭ったときに、自分の身は自分で守ろうとする意識がもてる。</p>	
<p>4 読み取りをして考えたことを書きまとめる。</p> <p>○話し合いをして、自分の考えが深まったり広がったりしたことをノートに書きましょう。</p> <p>＜児童のまとめの文章の例＞</p> <p>100年後のことまで考えて、大堤防を作ろうとした儀兵衛の考えは納得できる。子孫まで守ろうとしたからだ。また、それをみんなでやろうとした点がすごいと思う。自分の村は、自分たちが一番守りたいはずだからだ。しかし、自分のお金を出すことまでは、自分にはできないなと思った。自分ができるとしたら、お金がもらえなくても堤防作りで、一生懸命働くことかな。でも、儀兵衛のような考え方で、これから地元を見て行きたいなと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を思う気持ちが表れていて、自分なりに地域を守ろうとして考えを書いている子の文章を紹介し価値付ける。 	

5 評価規準

○儀兵衛の、ふるさとを思う気持ちと長期的な見通しをもった大堤防作りが村とその後の村を救ったことを読み取り、自分の感想を述べている。

1 単元名

わたしたちの生活と環境「自然災害を防ぐ」

2 ねらい

○自然災害から身を守るために、自分自身ができる考えを考える。

3 指導計画

(1) 事前指導

ねらい	学習活動	評価規準
わが国の自然災害について関心をもち、資料などを活用し、様々な自然災害の様子について調べ白地図や年表に整理することができる。	<p>1 事象提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">わが国では、どのような災害が起こっているのか調べよう。</div> <p>2 わが国で近年起きた自然災害について資料を活用して調べ、話し合う。</p> <p>3 自然災害の発生する場所や発生する時期について調べ白地図にまとめる。</p> <p>4 自然災害とわたしたちの生活との関わりについて交流する。</p>	我が国の自然災害について資料から読み取ったことを、白地図や年表に整理している。 【観察・資料活用】
自然災害を防ぐための国や都道府県、市町村の対策や事業を調べ、国民一人一人の協力や防災意識の向上が大切であることを理解することができます。	<p>1 事象提示【写真「東海地震の前触れかどうかを判定する会議の訓練」】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域、自然災害から人々を守るために、どのような取り組みが行われているのだろう。</div> <p>2 写真の施設が何のためにあるのかを話し合う。</p> <p>(1) 「砂防ダム」について</p> <p>(2) 「首都圏外郭放水路」について</p> <p>(3) 「ひなんやぐら」について</p> <p>3 どうして『ひなんやぐら』がつくられたのか考え、話し合う。</p> <p>4 災害から身を守るために、わたしたちのできることはどんなことだろう。</p>	国や地方公共団体が様々な対策や事業を行っていること、国民一人一人の協力や防災意識の向上が大切であることを理解している。 【知識・理解】

(2) 本時の指導

①地域の人の話や濱口梧陵の資料を読んで、気付いたことや分かったことを交流する。

②自然災害から身を守るために大切なことは何かを話し合う。

③これまでの学習をもとにして、自然災害の被害を防止するために、自分たちにできることを考え、作品に表現し、発表する。

4 本時の展開

ねらい	学習活動	評価規準
<p>○国語教材「百年後のふるさとを守る」を想起する。</p> <p>○本時の課題をつかむ。</p> <p>○自然災害から身を守るために大切なことを話し合う。</p> <p>○既習内容を生かし、自分の身を守るために備えについて、グループでの話し合いの成果をまとめて発表する。</p>	<p>1 濱口梧陵の銅像写真を提示する。 自然災害から身を守るために、わたしたちは何ができるだろう。</p> <p>2 地域の人の話や濱口梧陵の資料を読んで、気付いたことや分かったことを交流する。 (1)「地域の人の話」から ・住民相互の協力が大切である。 ・日頃から防災意識をもつことが大切だ。 (2)「村人を津波から救った濱口梧陵」から ・大地震の後には津波が来るので、早く高台に避難しなければならない。 ・100年先のことまで考えて、堤防を築いている。</p> <p>3 自然災害から身を守るために大切なことを話し合う。 (1)学校で昼休みに大地震が起きたら。 (2)学校の帰り道で大地震が起きたら。 (3)夜、家で大地震が起きたら。</p> <p>4 話合いをもとにして、グループで自然災害から身を守る具体的な提案をする。 (1)学校で昼休みに大地震が起きたら。 ・校内放送があったら静かに聞く。 ・揺れが収まるまで机の下などで頭を守る。 (2)学校の帰り道で大地震が起きたら。 ・塀や建物のそばから離れる。 ・洪水の時は高い所に避難する。 (3)夜、家で大地震が起きたら。 ・テーブルの下などに隠れて頭を守る。 ・高い家具などのそばから離れる。 ・扉が開かなくならないよう開放する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を拡大提示する。 ・自然災害の防止には、公助だけでなく、共助や自助も重要であることに気付かせる。 ・防災ノートを活用し、話し合いの視点を明確にして活動に取り組ませる。 ・参考になった友達の意見を付箋に書いて自分のノートに加えることで、視野を広げさせる。 【防災教育の観点】 ・災害から自らの命を守るために必要な行動をとることができるようにする

5 評価規準

社会的事象への関心・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会事象についての知識・理解
我が国の自然災害やその防止の取組の様子に関心をもち、意欲的に調べるとともに、自然災害の防止のために国民一人一人や自分自身に協力できることを考え、取り組もうとしている。	我が国の自然災害やその防止の取組の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、自然災害の防止を生活や自分と関連付けて、国・都道府県などの取組や、国民一人一人の協力、防災意識の向上が重要であることを表現している。	我が国の自然災害やその防止の取組の様子について、各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集め、我が国は自然災害が起りやすいことや、その被害を防止するためには国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることをまとめている。	我が国は自然災害が起りやすく、国や県が被害を防止するための対策や事業を進めていること、国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。

1 単元名 「流水の働き」

2 ねらい

- 前時の地域を流れる河川の観察やモデル実験を通して、それぞれの河川の川幅の違いから流れる水の量によって流れる水の速さや河川の様子が大きく変わることに気付く。
- 人々の災害対策の取組について理解することができる。

【防災教育の観点】

- 地域の河川のそれぞれの特徴や流れる水の量によって河川の様子が大きく変わることに気付く、それらの河川で起こりうる災害から自分にできる身を守る方法を考えることができる。

3 指導計画

(1) 事前指導

時 数	科学的な視点
第2時 ～ 流れる水は、地面の様子を どのように変えるだろう。	実際に水を流し、その水が地面をどのように変えて いるか観察することを通して、流れる水の三作用について考察する。
第4時 ～ 実際の川でも、流れる水は土地の 様子を変えているのだろうか。	上流・中流・下流における実物の石の様子を観察す ることを通して、流れる水の三作用について考察する。
第8時 ～ 土地の傾きによって、流れる水の 働きはどう変わるのだろう。	土地の傾きが変わると流れる水の働きが変わるか、 築山の流水実験から検証し、考察する。
第9時 ～ 水の量の違いについて、流れる水 の働きはどう変わるのだろう。	水の量が変わると流れる水の働きが変わるか、築 山の流水実験から検証し、考察する。
第11時 ～ 自分たちの地域を流れる 川を調べよう。	地域を流れる川の観察から、流れる水の働きやそれ までの学習内容がどの川に対しても当てはまるか検証 する。また、観察した川の土地の様子などを考慮し、 その地域に特化した川の様子を追究し、考察する。
第13時 ～ 地域を流れる川は、川幅の違 いによって流れる水の速さや 水の量が変わるとどのような 様子になるだろう。	地域を流れる川の観察から、さらに川幅に焦点を絞 り、その川幅の違いによって川の様子がどのように変 わるかモデル実験から検証し、考察する。

(2) 本時の指導

①地域の川に注目し、既習内容をもとに予想を出し合う

既習内容が地域の川にも当てはまるならどうなるか予想を出し合うことで、本時の課題を明確にもたせる。

②モデル実験を通して、地域の川に潜む危険性について考える。

川幅の違いによって流れる水の様子が違うことに気付かせ、大きな川と小さな川を比べることで、身近な川にも危険が潜んでいることを理解できるようにする。

③土木事務所の方の話を聞き、地域の川に対する防災事業を理解する。

全体交流後、土木事務所の方から話を聞き、河川による災害は大きな川による洪水などが考えられがちだが、身近な川であっても、増水時には流れが速くなり人が流されてしまうかもしれないことや水があふれて冠水被害が起こるかもしれないという危険が潜んでいることに気付かせる。

④終末において、学習してきたことをもとに、自分たちの地域や防災に関わる意識の変容を確かめる。

自分たちにできる身を守る方法を考えることで、身近な川に対する防災意識の高まりをねらい、自分の命は自分で守れる児童の育成を目指す。

4 本時の展開

ねらい	学習活動	指導・援助☆評価規準
つ か む	<p>○地域を流れる川の特徴から、本時の課題をつかむ。</p> <p>○既習をもとに、追究の視点を明確にする。</p> <p>○モデル実験から、課題に対する考え方を作る。</p>	<p>1 前時の振り返りから、本時の課題をつかむ。</p> <p>地域を流れる川は、川幅の違いによって流れる水の速さや水の量が変わるとどのような様子になるだろう。</p> <p>2 課題に対する予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の量が増えると流れは速くなると思う。 ・川の幅が細い川は水の量が増えるとあふれる。 <p>3 モデル実験から課題を追究し、全体交流をする。</p> <p>視点1 <水量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川幅が細い川は増水したらあふれそうだった。 ・川幅が太い長良川は増水しても大丈夫だった。 <p>○同じ水量でも川幅によってあふれそうになることがある。</p> <p>○水量は地域に降る雨の影響よりも上流の雨の方が影響が出やすい。</p> <p>視点2 <流れる速さ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・増水すると流れる速さは変わり速くなった。 ・川幅が細い方が流れる速さが速くなった。 <p>○川幅が細い方が流れる水の速さが速くなる。</p> <p>○流れる水の速さは増水すると速くなる。</p>
深 め る	<p>○全体交流から自分の考え方を深めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・増水する原因の大雨は、上流で降った方が自分たちの地域に影響が出やすい。 ・雨によって増水したら川幅が細い川はあふれそうになることがある。 ・増水したら流れは速くなり危なく感じた。 ・大きな川に注目するけど、雨が降った時は地域の川の様子を気を付けたい。 ・天気予報でも台風の影響や上流の天気の様子を気を付けて見たい。 <p>4 土木事務所の方の話から災害事業の取組について話を聞く。</p> <p>5 自分たちにできる身を守る方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報では、自分たちの地域だけではなく、上流の地域の天気も気を付けて見たい。 ・大雨が降った時は、大きな川を気を付けようとしていたけど、身近にある川の様子を気を付けていきたい。 <p>6. まとめる</p> <p>地域を流れる川の様子は天気の変化と大きく関係し、川幅や水の量によって水があふれそうになるなど大きく変化する。それらの危険から災害を防ぐために、自分でも身を守るための方法を考えることが大切である。</p>
ま と め る	<p>○地域の方の話を聞き、災害を防ぐ工夫や努力に気付く。</p> <p>○本時の学習を通して、自分たちにできる身を守る方法を考え、まとめる。</p>	<p>・既習内容との関連や自分の経験や見たり聞いたことなども取り入れ、地域の川に根差した考えをもたせるようにする。</p> <p>(資) モデル実験</p> <p>＜実験①＞</p> <p>同じ水量を幅の違う半筒状のパイプに流し、増水の状況を検証</p> <p>→幅が細い方がすぐにあふれそうにあることに気付かせる。</p> <p>＜実験②＞</p> <p>ジオラマに水を流し、流れる水の速さの違いを検証</p> <p>→同時に紙を流すことで幅が細い方が流れが速いことに気付かせる。</p> <p>→検証箇所だけ水を流すだけではなく、上流部から水を流すことで、川の流れは上流からの影響が大きいことに気付かせる。</p> <p>＜防災教育の観点＞</p> <p>☆モデル実験から河川の様子が大きく変わることに気付き、それらの河川で起こりうる災害を防ぐ人々の取り組みを理解し、そこから自分にできる身を守る方法を考えることができる。</p> <p>【思考・表現】</p> <p>モデル実験やゲストの方の話から、地域の河川について理解を深め、自分にできる身を守る方法を考えることができる。</p> <p>(発言・ノート)</p>

5 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・増水で地形が変化することなどから自然の力の大きさを感じ、川や地形の様子を調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水と地形の変化を関係付けたり、野外での観察やモデル実験で見いたしたことを実際の川に当てはめたりして考察し、自分の考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水と地形の変化の関係について調べ、その過程や結果を記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により地形の様子が大きく変化する場合があることを理解している。

1 単元名

「けがの防止（けがの手当）」

2 ねらい

○けがをした時には、けがの悪化を防ぐために、けがの種類や程度などの状況を速やかに把握して行動することが大切であることや、自分でできる簡単な応急手当の仕方を理解することができる。

3 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
<p>1 けがが起こった状況を確かめ、何をしたらよいかを考える。</p> <p>【事例】運動場でおにごっこをして遊んでいたAさんが友達とぶつかって転び、うずくまってしまいました。それを見ていたあなたはどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 声をかける。 すぐに先生を呼びに行く。 保健室に連れて行く。 <p>○なぜそうするのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 命の危険につながるけがをしているかもしれないから。 自分ではどうしようもできないから。 放っておいたら、けがが悪化してしまうから。 <p>○保健室に行く前に自分でできる手当の仕方はないでしょうか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>けがをしてしまったときに、自分でできる手当の仕方を学ぼう。</p> <p>3 けがの状態から、自分で手当できそつかどうかを判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽いけが（すり傷・切り傷・鼻血・軽いやけど等）なら手当できそうだ。 頭を強く打っていたり、出血がひどかったりしたら、自分でできない。 <p>○自分でできないと判断したときはどうするとよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> すぐに先生に知らせる。 病院でみてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んできたことを生かして、自分にできることを考え、発言できた子を認める。（T1） けがの程度によっては、自分の判断で応急手当ができるなものもあることに気付かせる。（T1） 	事例を書いた掲示物

<p>4 養護教諭（T 2）の話を聞き、けがの応急手当の仕方を理解する。</p> <p>すり傷 …清潔にするため、水でよごれを落とす。消毒する。</p> <p>切り傷 …血を止めるため、清潔なハンカチなどで傷口を押さえる。</p> <p>鼻血 …血を止めるため、鼻をつまんで、じっとしている。</p> <p>やけど …すぐに清潔な水でじゅうぶんに冷やす。</p> <p>打ぼく・つき指・ねんざ …すぐに冷やす。動かさず静かにしている。</p> <p>5 実習を通じて、けがの応急手当ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな切り傷なら、傷口をきれいにしてバンドエイドをはろう。 ・鼻血が出たときには鼻のこの部分をしっかりおさえるんだね。 ・つき指をした時には、引っ張らずに、冷やすんだね。 <p>6 ワークシートで本時のまとめに取り組む。</p> <div data-bbox="198 1078 727 1482"> <p>けがをしてしまったときには、それ以上悪化しないように、けがの種類や程度など、状況を速やかに判断する。</p> <p>① 自分では手当できないようなけがだった時 →できるだけ動かさず、すぐに近くの大人の人に知らせる。</p> <p>② 軽いけがだった時 →自分でできるけがの手当を行う。 ☆傷口を清潔に ☆出血を止める。 ☆冷やす。</p> </div>	<p>• 図を用いて症状を提示し、正しい手当の仕方のポイントを説明する。（T 2）</p> <p>• 正しく手当することの大さに気付かせるために、なぜそうするのかをT 2に問い合わせる。（T 1）</p>	<p>けがの種類を示したカードと挿絵 手当の仕方の掲示物</p> <p>応急手当セット</p> <p>ワークシート</p> <p>【防災教育の観点】 『知識・理解』 けがをした時の状況把握の仕方や簡単なけがの手当の仕方を理解している。</p>
---	--	--

5 評価規準

○けがをしてしまったときの判断の仕方や簡単なけがの手当の仕方を理解している。
<知識・理解>

6 その他

『小学校学習指導要領解説 体育編』 文部科学省
『「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き』 文部科学省

1 題材名 「地震から身を守る」

2 本時のねらい

○校内で地震に遭った時の身の守り方について話合う活動を通して、「物が落ちてこないか」「物がたおれてこないか」「物が動くことはないか」「体・頭を守っているか」という視点で安全な身の守り方を考えることができる。

3 活動の流れと指導・評価 (◇指導 ○評価)

朝学習

① いざという時の身の守り方

- ・命を守る訓練をもとに、地震が起きた時の行動を考える。
- ・教室での授業以外で地震に遭遇した時のことを考える。
- ・これから学習する事柄「様々な場所での身の守り方」を考えることを確認。

◇これまでの活動から命を守る行動の方法を確かめ、これからの中の学習に見通しをもつようとする。

○身を守るために学習について見通しをもち、身を守る活動について考えている。
(関・意・態)

学級活動（本時）

②③校内での身の守り方

- ・校内で地震に遭った時、どうやって身を守ることができるか考え、実践する。
- ・身の守り方を班・学級で話し合い、より適切な方法を考える。

◇班ごとに調べてきた事柄を交流する中で、より適切な身の守り方を考えるようにする。

○校内で地震に遭遇した時の身の守り方を考えている。
(思考・判断)

朝学習

④⑤普段の身の守り方

- ・家庭や通学路で災害に遭った時の身の守り方を考える。
- ・地域の安全マップをもとに、安全な避難方法を確かめる。

◇様々な資料をもとに、身を守る行動を考えるようにする。

○調べてきた内容から、災害に遭った時の身の守り方を考えている。
(思考・判断)

学級活動

⑥振り返り

- ・自分の身の守り方について分かったことをまとめること。

◇学習した内容を確かめ、今後も命を守る行動をとることへの意欲を促す。

○これまでの活動の成果が分かり、今後の行動がわかる。
(知識・理解)

4 本時の展開

学習活動	指導・評価
1 本時の活動内容を確かめる ・調べてきた場所と身の守り方を班で確認する。	・これまで調べてきた内容と発表方法を確認しておく。
調べてきたことを交流し、安全な身の守り方を考えよう	
2 調べてきた身の守り方について発表する 1班 家庭科室 棚の近くは物が落ちてくるから危ない 真ん中でしゃがむのが一番いい 机の下にもぐればよい 2班 図書室 本棚の近くは危ない 机やテーブルの下ならいい カウンターの下も大丈夫 真ん中でしゃがむのもいい 3班 音楽室 オルガンやピアノは倒れそうで危ない 教室の真ん中の何もないところでしゃがむのがいい ○落ちてこない、倒れてこない、移動してこない 場所 3 グループの発表を聞き、自分の考えを交流する ○4つの視点にそって気づいたことを発表する ・家庭科室の棚の下は扉があぶないと思う。 ・図書室のカウンターの下は、その後逃げるのが難しいからやめた方がいい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの消防士さんを紹介し、アドバイスを受けることを確認する。 ・班ごとに発表する。 ・身の守り方がわかるように、それぞれの場所での避難方法については事前にまとめたワークシートと写真を使って提案できるようにしておく。 ・発表を聞く班は、「落ちてくる物がないか」「倒れてくる物がないか」「動く物がないか」「頭・体を守られているか」という視点から安全であるか確かめながら聞くことを確認する。 ・意見がまとまらない時には、その後に避難する時のことを考えるように話す。 ・意見が出なかったりまとまらなかったりした時は、消防士さんの意見を聞く。 ・「～にもぐる」という考えについては、その道具が丈夫かどうかについても考えるよう指導する。
4 交流した内容を確認する ○ゲストティーチャーである消防士の方に授業交流内容の感想を聞き、自分たちの考えた身の守り方の安全性について講評を受ける。 ○地震がおさまったら次は教室から外に避難することを確認する。	<p>思</p> <p>校内で地震に遭遇した時の身の守り方を「物が落ちてこないか」「物がたおれてこないか」「物が動くことはないか」「体・頭を守っているか」という視点で考えている</p>
5 本時のまとめをする ○今後、気を付けていきたいことをワークシートに記入する。	・学校に限らず、家や様々な場所にいるときにも同じように考えることを伝え、次は家の身の守り方を考えることを話す。

5 評価の観点と評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
身を守るために学習について見通しをもち、地震から身を守る活動を考えている。	校内や様々な場所で地震に遭った時の身の守り方を考えている。	様々な場所で地震に遭ったときの身の守り方がわかり、今後実際に地震に遭った時の行動の仕方について理解している。

1 単元名

「命を守る防災マップ」

2 ねらい

○自分たちの命を守ることができる通学路の防災マップを作ることを通して、通学路における危険箇所やその内容を具体的に理解し、安全についての見方・考え方を深め、防災意識を高めることができる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

- ・各地域方面に分かれ、通学路の危険箇所とその内容、安全な場所を確認していく。現場の様子を記録するデジカメやメモ帳を用意し、消防署の方の話を聞きながら、資料を集める。
- ・集めた資料を危険箇所、安全な場所に分けてそれぞれ整理する。
- ・危険な箇所の資料をマップにまとめる。

(2) 本時の指導

- ・全校児童にとって分かりやすい防災マップにするには、どうしたらいいか考える。
- ・通学路の安全な場所の資料をマップにまとめる。
- ・出来上がった防災マップを交流する。
- ・防災マップを、消防署の方に評価していただく。

(3) 事後指導

- ・通学班班長会で、第5学年が作った防災マップを各登校班班長、副班長に伝える。
- ・通学班ごとに防災マップをもとに、通学路の危険箇所や安全な場所を確認しながら下校する。
- ・防災マップを活用して、登下校における避難訓練を実施する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 本時の課題を確認する。 前時までに作成した防災マップ（危険箇所が分かるマップ）をもとに危険箇所を確認する。	・全校児童にとって分かりやすい防災マップにするためにはどうしたらいいか考えさせる。	作成途中の防災マップ

<p>2 防災マップを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここは、周りに何もない場所だから、地震の時に安全だ。 ・石垣が高く積んである場所は、洪水のときに避難できそう。 ・集会所は、災害の時に地域の人が集まる場所だから大切だ。 →避難の道が分かるように矢印を書く。 →視覚的理を促すために囲んだり、字を太くしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①どんな時に避難するのかを整理する。 ②どうして安全なのかを分かりやすくマップにまとめていくことができるよう助言する。 ・作業が終わった班から交流するための発表練習をする。 	各方面の安全な場所の写真資料
<p>3 各方面で作ったマップを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表をする。 ・発表を聞いて感想を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①危険箇所 ②避難経路 ③それを伝えるために工夫したこと話を話すようする。 ・マップのよさを見付けることや、自分たちの地域と比べて話を聞くことができるようする。 	
<p>4 本時の学習内容をまとめる。</p> <p>消防署の方のお話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の方から防災マップの評価をしていただく。 	学習のまとめのプリント

5 評価規準

- 全校の仲間が分かりやすい防災マップを作ろうと考えている。
- 全校に発信するための防災マップを工夫して作ることができている。
- それぞれの通学路の危険箇所やその内容、安全な場所が分かっている。

1 単元名

「わたしたちにできる防災」（災害伝言ダイヤル）

2 ねらい

○地域で災害が起きたときに家族や地域の人が安全に避難できるようにするために、日頃からどのような備えをしていくとよいか考え、実践することができる。

○もし、家や地域で災害が発生した場合を想定し、第6学年としての自分にどのようなことが

できるかを考え、その準備や練習を通して、心構えをもつことができる。

3 指導計画**（1）事前指導**

- ・家庭や地域にいるときに大地震や洪水が起こったとき、自分に何ができるか、どのような行動をとるとよいかを考える。
- ・自分の行動を箇条書きにまとめ、地域で避難するときは、近所で声をかけ合って避難することや、小さい子・お年寄りのためにできることを考える。
- ・仲間で交流し、第6学年の自分たちがよりよい行動をとれるようにする。

（2）本時の指導

- ・災害のとき、それぞれの避難場所に避難した際、家族と連絡をとる方法について考える。
- ・災害伝言ダイヤルの役割や利用の仕方をNTTの方に教えてもらい、実際に体験することで利用の仕方を知る。
- ・災害の写真から、伝言メモの重要性とその活用法を知る。
- ・家族に伝言を残すつもりで、実際に練習する。

（3）事後指導

- ・災害伝言ダイヤルで話すことや、伝言メモに書く内容を、具体的な相手を設定して防災ノートにメモし、振り返りをする。
- ・災害伝言ダイヤルについて学んだことを、家族や親戚に広めることで、実際の災害の時に活用できるようにする。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 災害経験者の話から、避難したとき、家族や親戚の安否確認が一番気になった事実について知る。 避難所で家族や親戚の人と連絡をとるために、「災害伝言ダイヤル」や「伝言メモ」について知り、体験しよう。	・災害体験者の話や体験談が分かるよう、準備する。	・災害体験者の体験談
2 災害伝言ダイヤルの利用の仕方について、防災ノートで確認する。	・防災ノートを利用し、災害伝言ダイヤルの利用の仕方を確認する。	・防災ノート「災害伝言ダイヤル」
3 NTTの方に、よりよい災害伝言ダイヤルの利用の仕方や注意点を聞く。	・NTTの方に、実際に使うときに、足らないことを補ってもらう。	
4 災害伝言ダイヤルを体験する。 ①伝言内容を書いてみる。 ②衛星電話を使って、災害伝言ダイヤルにかけ、伝言を録音する。 ③ペアの人が伝言を聞き、避難者の状況がよく分かったか話し合う。	・伝言内容を紙に書いて確認してから体験する。 ・ペアで話し手と聞き手に分かれて体験する。	・伝言メモを書くワークシート
5 電話が使えないときには、メモとして伝言を残すこともあることを知り、メモの要件を確かめる。	・実際の避難所に残された伝言メモの写真を参考にメモの重要性を気付かせる。	・実際の避難場所の伝言メモの写真
6 伝言ダイヤルや伝言メモを体験して、分かったことや考えたことを意見交流する。		
7 本時のまとめをする。		

5 評価規準

- 災害に備えて、家庭や地域でどのようなことができるかを進んで考え、自ら取り組もうとできている。
- 災害の際、家庭や地域で自分ができることを考え、仲間と意見交流し、よりよい方法を考えることができている。
- 避難場所で家族と連絡をとる方法を知り、体験することができている。

1 単元名

「わたしにできる防災」

2 ねらい

- ・地域で災害が起きたときに家族や地域の人が安全に避難できるようにするためには、日頃からどのような備えをしていくとよいか考え、実践することができる。
- ・地域で災害が発生した場合を想定し、第6学年として自分にどのようなことができるかを考え、その準備や練習を通して、心構えをもつことができる。

3 指導計画**(1) 事前指導**

- ・家庭での災害の備えに対するアンケートをとり、その結果から、家庭での備えの実態を知る。
- ・自分の家では、災害の時どのような危険があるのか、そのためにどのような備えが必要かを考える。
- ・災害に対する備えを実践するための計画を立てる。
- ・「家庭でできる自助」の講演を聞き、災害のとき、家庭の中の起こりうる危険について整理し、危険を防ぐための方法（家具固定の仕方等）について明らかにする。
- ・自分の家庭に必要な取組を親子で考える。

(2) 本時の指導

- ・災害に備えて家庭で実践したこと（防災袋の準備、食料の備蓄、落下防止、家具固定、避難の方法の話し合い等）を、写真や実物を提示するなどの工夫をし、具体的に発表する。
- ・仲間の発表を聞き、よかつたところ、こうするとよいところを意見交流し、学び合う。
- ・さらに家庭において自分ができることを考える。

(3) 事後指導

- ・仲間の実践を聞き、さらに自分の家庭でできることを考え、家庭の協力を得て実践する。
- ・実践したこと、実践して考えたことを他の家庭に広めるため、授業参観等で紹介する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
<p>1 事前アンケートの調査結果を示し、防災袋の準備、食料の備蓄、落下物・転倒物の移動、家具固定、避難場所や避難の方法の確認など、できることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 災害に備えて家庭で実践したこととを交流し、友だちや取組のよいところを見付けよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が実践した防災・減災の内容を、あらかじめ把握しておく。 写真を実物投影機で見せたり、防災袋や作った物を実際に見せたりするなど、準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での災害に対する備えのアンケート結果 防災ノート「日頃から備えられること」
<p>2 災害に備えて家庭で実践したこととを、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①防災袋の準備 ②食料の備蓄 ③落下物・転倒物の移動 ④家具の固定 ⑤避難場所・避難方法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 理由や根拠をはっきり発表できるよう、話形を示しておく。 聞く人は、よかったところや疑問に思ったところをメモを取りながら聞くようさせる。 	観付ける
<p>3 仲間の発表を聞いて、意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災袋は生きるために必要な物を最優先することがわかった。 家具固定は、いざというとき命を守るので実践するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に意見を出させ、板書に位置付ける。 	
<p>4 消防署（工匠組合の方）に、お話を聞く。</p> <p>5 今後自分が実践したいことをまとめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 消防署の方に依頼 防災ノート振り返り

5 評価規準

- 災害に備えて、家庭や地域でどのようなことができるかを進んで考え、自ら取り組もうとすることができます。
- 自他の命を守るために何を優先するとよいか、自分に何ができるかを考え、実践することができます。
- 仲間と防災・減災の意見交流をしたり、専門家の話を聞いたりすることで、よりよい実践方法を理解することができる。

1 行事名 「防災キャンプ」

2 ねらい

- ①災害発生時に自分や家族が無事でいるためには、日頃からどのように気を付ければよいかを考えて行動する力を育てる。
- ②災害が発生して自分の家に住めなくなった場合の状況を想定し、どのように気を付けて行動するべきか、いざという時にどのように行動すればよいか判断する力を育てる。
- ③仲間と協力し合って行動することで、仲間のよさや素晴らしさを体感し、思いやりの心を育てる。

3 指導計画

(1) 事前指導

地震発生時にはどのような行動をすればよいかを考える学習を設定する。学校内や自分の住んでいる地域ではどのようなことが起こりそうか予想する。

避難所に避難しなければならなくなった場合、どんなことを考えて行動しなければならないか考える。

(2) 活動内容

- ①校区めぐり（危険場所確認）とマップの作成
 - a) 地域の消防団と一緒に校区をまわり、地震や大雨などの災害時の危険箇所や役に立つ施設（消火栓、防災倉庫、避難所、避難場所など）、安全に避難できる場所を見つけたり、聞き取ったりする。その後、自分の住んでいる地域の地図に消防団の方から聞いたり学んだりしたことをシールや付箋を使って書き入れる。
 - b) 作成した地図についての感想や災害時にどのように行動したらよいかを、地区ごとで話し合う。話し合ったことを地区ごとの地図にまとめ、発表の準備と練習をする。
 - c) 地区ごとに発表をし、互いの感想を交流する。消防団の方からの意見や感想を聞く。



②児童炊き出し訓練（夕食づくり）

- ・薪に火をつけ、飯ごうでご飯を炊いたり、カレーを作ったりする。非常時には水が使えないこともあるので皿にはラップを巻くなど、非常時を想定した工夫を学ぶ。

③避難所設営訓練（段ボールハウス作り）

- ・段ボールを使い、自分が寝るための段ボールハウスを作る。アルミシートを敷いた上に段ボールハウスを設営する。一人毛布2枚または寝袋を準備して寝る。

④避難所体験

- ・地域住民が体育館に避難した時を想定した訓練を行う。受付と案内を児童が、炊き出しをPTAが、消防署が防災に関する資料提供を分担する。

⑤物資輸送訓練

- ・電気の消えた廊下を通って、備蓄室からランチルームへ夜食を運ぶ。

⑥命を守る訓練（緊急地震速報で起床）

- ・翌朝は、緊急地震速報で起床する。先生の指示がなくても、自分の身の安全を確保する方法を考え実行する。ヘルメットがない場合には、その代わりになるもので身を守るなど工夫する力を付ける。

⑦非常食づくり（2日目の昼食づくり）

- ・避難所では自分たちでおにぎり等を作らなければならないことも考えられる。上級生が下級生のために昼食のおにぎりを作る。

⑧救急救命講習

- ・消防署の指導を受け、心肺蘇生法やAEDの使い方などについて高学年の児童や保護者、教員が研修する。

⑨消防署による防災教室

- ・消防士による防災教室を行う。学校の防災設備や防災に関する知識を学ぶ。さまざまな場所で地震が起きた場合の対処法を学ぶ。



《消防士のクイズに答えるながら学ぶ児童》

（3）事後指導

防災教室で地震があった時の対応として、教室以外の場所での対応について学んだ内容を、次回の「命を守る訓練」につなげる。

4 評価規準

○さまざまな体験活動を通して、地域で起こる災害や自分の身を守る方法を知り、日常生活に生かしていこうとしている。

5 その他

<防災キャンプ日程例>

1日目

時刻	内容	児童	職員	備考
8:10	登校 朝の会（各学級）	朝の会 キャンプ準備		
8:30	避難所宿泊場所設営訓練	段ボールを使って、自作段ボールハウスを作成する。（5, 6年） (放課後などを使って事前に作っておく) (1, 2年は地域探検) (3, 4年は明日の準備)	担当:高学年担任 *段ボール ガムテープ	事前に大きな段ボールを集める。
9:50 10:10	キャンプ開会式 消防署の方の話	全校児童参加	担当:高学年担任	
10:10 10:20	防災マップの説明 地域探検 (歩でA地点まで移動。A地点の広場で消防団の方と合流。その後バスに乗り、以前災害が起きた場所などを教えていただく)	全校児童がSBで全地区を廻る。 地域の消防団の方に以前災害が起きた場所やその時の様子を教えていただく。 危険場所を地図に書き入れる。 バスで地域を巡回する。 弁当を持って出かけ、途中で食べて帰校する。	担当:教務	SBで全地区を廻る。 地図にメモする。 スクールバス利用 消防団との打ち合わせ:教頭
13:05	学校到着			
13:10 13:35	安全マップづくり	今日わかったことを安全マップに追加する。 (バス分団、歩行分団に別れて行う) 発表の練習	担当:養護教諭 *地図の準備 *シール *マジック 等 歩行班:中学年担任・養護教諭 SB班:高学年担任・教頭	1, 2年は教室 (低学年担任)
13:40 14:10	安全マップの発表 消防分団長さんのお話	今回書きこんだことを中心に発表する。	担当:養護教諭	*保護者参加 1・2年下校 14:20 (低学年担任)
14:15 15:00	救急救命講習	5, 6年児童+保護者 (1, 2年は下校) (3, 4年は、鍾乳洞探検)	担当:養護教諭	*消防署 *保護者参加
15:00 15:20	避難所宿泊場所設営訓練	5, 6年は段ボールハウスを完成させる。 体育館のシート敷き	担当:高学年担任 担当:教頭	
15:30 17:00	炊き出し訓練 (カレーライスづくり、飯盒炊さん) 児童夕食 片付け	外でかまどをつくり、飯盒でご飯を炊く班と、家庭科室でカレーとサラダを準備する班に分かれる。 後片付け	担当:高学年担任 かまど:教務 *食材準備 (養護教諭・校務員)	児童と職員は家庭科室の食器利用 飯盒借用(市教委)

18:00	地域の炊き出し訓練協力 (体育館が避難所になる)	協力者と共に来校者にカレーライス配布 避難所受付手伝い	担当:教頭 (地域との調整) 児童指導:高学年担任 職員:行動マニュアル参照	・事前に参加希望者を募る。保護者は公民館でカレー作り ・紙皿 ・お茶 500ML 参加者分準備
19:00	キャンプファイヤー準備	5, 6年が中心に計画を立て実施。 詳細は別紙計画	担当:高学年担任 井桁の準備はボランティア依頼	ファイヤーキーパー依頼 地域の方々も参加
19:30	キャンプファイヤー		1・2年は保護者の判断で保護者とともに参加	3・4年保護者と下校
20:30				
20:45	物資輸送訓練 ・夜食	電気の消えた廊下を通って、夜食をランチルームに運び食べる。 (5, 6年)	担当:高学年担任 *夜食の購入 (養護教諭)	
21:00	シャワータイム (保健室)	順番にシャワー(5, 6年) (一人当たり5分程度)	担当:高学年担任	
22:00	歯磨き 消灯	自分の作った段ボールハウスに入って就寝。	女子:高学年担任 男子:教頭	2階教室利用 (男女別)

2日目

時刻	内容	児童	職員	備考
6:00	命を守る訓練 ・緊急地震速報発令	緊急地震速報が発令されたので起床し、安全を確保する。 安全が確認されたら、放送の指示に従い行動する。 ランチルームに集合	担当:養護教諭	*消防署
6:30	朝食づくり	朝食づくり(ごはんとみそ汁)	担当:高学年担任	
7:00	朝食 食事の後かたづけ 洗顔 歯磨き 片付け	昼食用のおにぎり作り	担当:高学年担任 *食材準備(養護教諭)	家庭科室で調理実習
8:00	1~4年登校			4年登校班長
8:10	朝の会			事前指導する。
8:30	防災教室	防災について学ぶ。	担当:養護教諭	消防士さんの話
9:30				
9:45	自然体験 ・自然を知る活動	3, 4年のリードで行う。 ・持ち物: ・雨天メニュー:	担当:中学年担任	*外部指導者 *雨天メニュー依頼
11:30				
12:00	昼食(おにぎり)	教頭先生や校長先生の水害の体験談を聞く。	担当:養護教諭	
12:40	学級の時間	学級ごとにキャンプで学んだことをまとめる。	各担任	
13:10				
13:20	キャンプ閉会式 ・学んだことの発表		担当:高学年担任	
13:50	・消防署のご指導			
14:00	下校			

1 行事名 「避難所設営訓練」

2 ねらい

○いつ発生するか分からない予測不能な災害が発生し、学校が避難所になった場合、地域の人と協力しあって、どのように行動すればよいかを体験を通して学ぶ。

3 指導計画

(1) 事前取組

- ・各地区の自治会長と地域住民の避難所（小学校体育館）への避難訓練について打ち合わせを行う。訓練内容として、地域住民は受付後、地区ごとに集まって食事をし、防災に関するDVDを鑑賞する。
- ・防災DVDの借用と説明を消防署に依頼する。
- ・PTAに炊き出し訓練としてカレーライスづくりを依頼する。
- ・児童には「自分たちができること」を考えさせて、当日の活動を決める。
- ・職員はマニュアルに沿って行動できるよう、マニュアルの再確認を行う。

(2) 本時の指導

- ・児童には、学校が避難所になった場合は地域の人々が集まってきて生活することになることを知らせる。その上で、地域の方々に学校施設の案内をする等、自分ができることを明らかにして、人のために進んで行動することの大切さを指導する。本時は体育館での地域の人に対する案内や食事の手伝いを行う。

(3) 事後指導

- ・受付や食事の手伝い、案内を行うことにより実際の避難所の様子を知り、災害時に自分たちでもできることがあることを再確認させ、地域の一員として活動することの大切さを指導する。

4 訓練の流れ

訓練の流れ	教師の指導・評価	資料等
1 炊き出し準備 保護者集合 食事づくり開始		
2 体育館受け入れ準備 受付、配膳場所、地区名看板設置 DVD準備	<ul style="list-style-type: none"> ・受付では混雑が予想されるが、自分で氏名、地区、年齢を記入してもらうように指導する。 ・特に高齢の方に配慮して各地区の集まる場所を示したり、暗い避難所内で足元に気をつけることなどを呼びかけられるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受付用紙、筆記用具 ・靴を入れるビニール袋 ・地区名を書いた紙と行燈
3 受付・食事 受付(体育館玄関)：名前、地区名、年齢を名簿に記入 受付終了者にカレーライスを渡す。避難者はカレーライスを受け取り食べる。		

4 消防署長の話	・ゴミ袋を出口に設置し、ゴミの回収場所が指示できるように指導する。	・防災に関するDV
5 学校長、自治会長あいさつ		D
6 後片付け (19:00)		

5 評価規準

○学校が避難所になった時、地域の方に積極的に声をかけたり高齢の方に配慮して行動したりしている。

6 資料

- 受付用紙・・・地区別に1枚の紙を用意する。

() 地区	
氏名	年齢

- 活動の様子



1 単元名

「親子で地震のこわさや避難所の体験をして、家庭でできる自助を進めよう」

2 ねらい

- ・防災講話「家庭でできる自助(家具固定の仕方)」を聞き、地震時に命を守るために家具の固定が必要であることを理解し、家具固定の仕方を親子で学ぶ。
- ・6つの避難所体験コーナーを親子で回り、地震の揺れのこわさ、消火器の扱い方を体験したり、避難所での給水、炊き出し、非常食試食、仮設トイレ、パーテーション等を体験したりして、防災意識を高める。

3 指導計画

(1) 事前指導

- ・防災参観の目的、体験コーナーの種類、当日の流れ、親子でいっしょに体験することの意味等を知らせる。
- ・時間内に全児童が保護者とともに防災講話と避難所体験ができるよう、地区別に2コースに分け、ラリー形式で進められるようにする。

(2) 本時の指導

- ・工匠組合の方から防災講話「家庭でできる自助(家具固定の仕方)」を聞く。
- ・仮設の壁を使って、どの位置に家具を固定すればよいか、実地体験をする。
- ・親子でラリーカードにシールを貼りながら、避難所体験コーナーを回る。
 - ①起震車体験
 - ②初期消火体験
 - ③仮設トイレ、パーテーション体験
 - ④給水体験
 - ⑤炊き出し体験
 - ⑥非常食試食体験

(3) 事後指導

- ・終了後、親子で防災アンケートに記入しながら、ふり返る。
- ・防災ノートに感想や家庭で実践したいこと等を記入する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 防災講話「家庭でできる自助(家具固定の仕方)」を聞く。	・工匠組合の方による講話を親子でしっかり聞けるよう、声をかけながら見届ける。	仮設の壁
2 家具を固定できる位置を仮設の壁に下地センサーを当てて、調べる。		下地センサー 避難所体験ラリーカード
3 避難所体験コーナーを親子で回る。 ①起震車体験 ②初期消火体験 ③仮設トイレ、パーテーション体験 ④給水体験 ⑤炊き出し体験 ⑥非常食試食体験	・6つのコーナーを時間内に全児童と保護者が体験できるよう、各コーナーに担当職員を配置する。 ・1カ所に集中しないよう地区ごとの時間配分を指示する。 ・1つの体験が終わるごとにラリーカードにシールを貼り、見届けと励ましを行う。	○消防署 ・起震車 ・消火器 ・消火の的 ・仮設トイレ ・パーテーション ・湯沸かし鍋 ・コンロ ・アルファ米の非常食 ○水道課 ・給水車 ・給水袋
4 防災アンケート、防災ノートに感想やこれから実践したいこと等を記入しながら、ふり返る。	・防災アンケートの集計とまとめをする。	

5 評価規準

- 防災講話を通して、地震に備えて家具固定の必要性や方法を理解する。
- 起震車、避難所体験を通して、災害に対する危機意識や家庭での防災、減災対策を進めようとする気持ちを高める。

1 防災ノート開発のねらい

- ・防災教育を、いろいろな教育の場で計画的に行うため
- ・教科書代わりとして、防災ノートを使って授業を行うため

2 防災ノートの工夫

- ・発達段階を考え、低学年・中学年・高学年の3種類を作成する。
- ・それぞれの学年の教科や総合的な学習の時間との関わりを持たせる。
- ・地震や洪水に対する身の守り方については、学年の発達段階を考慮し、系統的かつ継続的に指導できるように、全学年の防災ノートに掲載する。

【海津市立西江小学校作成】



②きょうしつやいろいろなばしょ・いろいろなじかんでのひなんのしかた

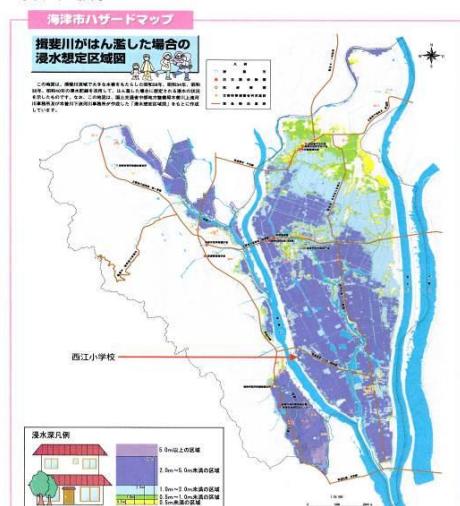


第5学年の理科「台風と天気の変化」「流れる水のはたらき」で、洪水被害について学習するため、海津市のハザードマップのページを設けている。中学年では、地域の過去の災害を知る学習も位置付けられている。

2 水害について知ろう

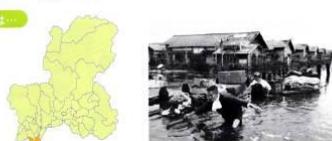
①海津市で水害が起きたらどうなるか知ろう

海津市では、地震で地盤沈下が起きたとき、地震の後の津波が海から逆流してきたとき、台風や大雨での水が多くなったときなどに、川の水があふれて洪水になるかもしれません。洪水になると、西江小学校のあたりは、3～5メートルほど水につかると考えられています。



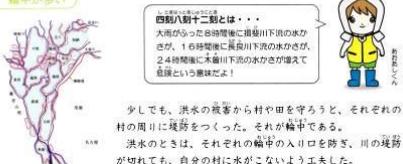
②水害に苦しんだ海津の歴史について知ろう

海津市とは...



海津市海津町は、岐阜県で最も土地が低く、揖斐川・長良川・木曽川などの大きな川が集まっている。昔から大雨が降るたび、洪水にならざれてきた。**吉野八幡十二刻**ということわざがあり、人々は注意してきた。

ア 緯中が多い



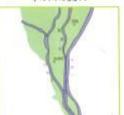
少しでも、洪水の脅威から村や田を守ろうと、それぞれの村の周囲に堤防をつくった。それが輪中である。洪水のときは、その輪中の入り口を防ぎ、川の堤防が切れても、自分の村に水がこない工夫した。

イ 三川分離工事が行われた

250年ほど前の川の流れ



今川の流れ



今から250年ほど前(江戸時代)には、左のように行川があみ田のように流れ、たくさんのがれやく村があった。そのころは堤防が切れやすく、洪水がおこった。そこで、三つの川を堤防でしっかり守ける工事が行われ、右のようになった。

3 防災ノートを使った指導計画案 [第1学年 学級活動]

①題材名 「地震の時の身の守り方」

②本時の目標

大地震が起こるとどのような災害が起こるのかを防災ノートによって知るとともに、その際どのように自分の身を守るとよいかを、いろいろな場面を想定して実際に行動することで考え学ぶことができる。

③本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 大地震のとき、学校の中にどのような危険があるかを発表する。 <ul style="list-style-type: none">・上から物が落ちてくる・ガラスが割れる、壁がはがれる・棚や掲示板がたおれる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">学校で大地震がおこったとき、どのように自分の命を守るとよいかを知ろう。</div>	・防災ノートの、「学校の中で危険な場所」のページを提示し、危険箇所を見付けさせる。	・防災ノート「学校の中で危険な場所」拡大表示
2 学校の中では、どのように身を守るとよいかを考える。 <ul style="list-style-type: none">・教室の中では・机のないところでは	・防災ノートを見ながら避難の仕方をペアで話し合い、みんなが自分の考えを話せるようにする。	・防災ノート「避難のしかた」拡大表示
3 大切なことをまとめること。 <ul style="list-style-type: none">・大きな地震のときは、あたまを守っておちついて、あんぜんな場所で、しゃがむ。	・防災ノートにもある、身を守るときに大切な言葉「あ・お・あ・し」を覚える。	・「あ・お・あ・し」の合い言葉の掲示物
4 実際に行動してみる。 ア. 教室では イ. ワークスペース、廊下では ウ. 図書室では	・行動する側と見る側に分かれて、よいところ、直すべきところを考えさせる。 ・防災ノートに分かったこと、考えたことを書かせて発表させる。	
5 避難するときに大切なことをまとめること。		・防災ノート振り返りの欄

4 評価規準

○災害時のよりよい行動について、進んで自分の考えを発表したり行動したりできる。（関心・意欲・態度）

災害から命を守る9つのポイント



地震は突然発生し、家屋の倒壊や火災、液状化などを引き起こします。

大雨や台風は洪水、がけくずれ、土石流などを引き起こします。

災害が起こる前から気を付けて！ 日頃からの備えと心構えが重要です。

モノより命を大切に！！

いざというときには、荷物を持たず避難を最優先で！！

- 1 日ごろからあらかじめ避難路や避難場所を家族みんなで確認しておきましょう。
- 2 日ごろから家族で緊急時の連絡手段について、確認しておきましょう。NTT西日本災害用伝言ダイヤルなどが有効です。また、お子さんのランドセル等に家族の連絡先（携帯電話のメールアドレス）をつけておくと、いざというときに連絡を受けることができます。
- 3 荷物はあらかじめ必要最小限にまとめ、リュックサックにいれましょう。
(ただし、緊急時には荷物を持たず、避難最優先で行動しなければなりません。)
- 4 (風水害の場合) 台風や雨雲がどこへ進んでいくのかなど、
(地震災害の場合) 余震や被害の状況など、テレビやラジオで正確な情報をつかみましょう。(憶測やデマに惑わされて下さい。)
- 5 服装は身軽であたたかいものを用意しましょう。
- 6 危ないと感じたら家族の人と話し合って早めに避難しましょう。
- 7 役所からの避難の指示があったときはすぐに避難しましょう。
- 8 (風水害対策) 長ぐつは、くつのなかに水がはいって動けなくなります。運動ぐつで避難をしましょう。
- 9 避難の際には、近所のお年寄りなど避難に支援が必要と思われる人に声をかけましょう。



(岐阜県防災課HPより)